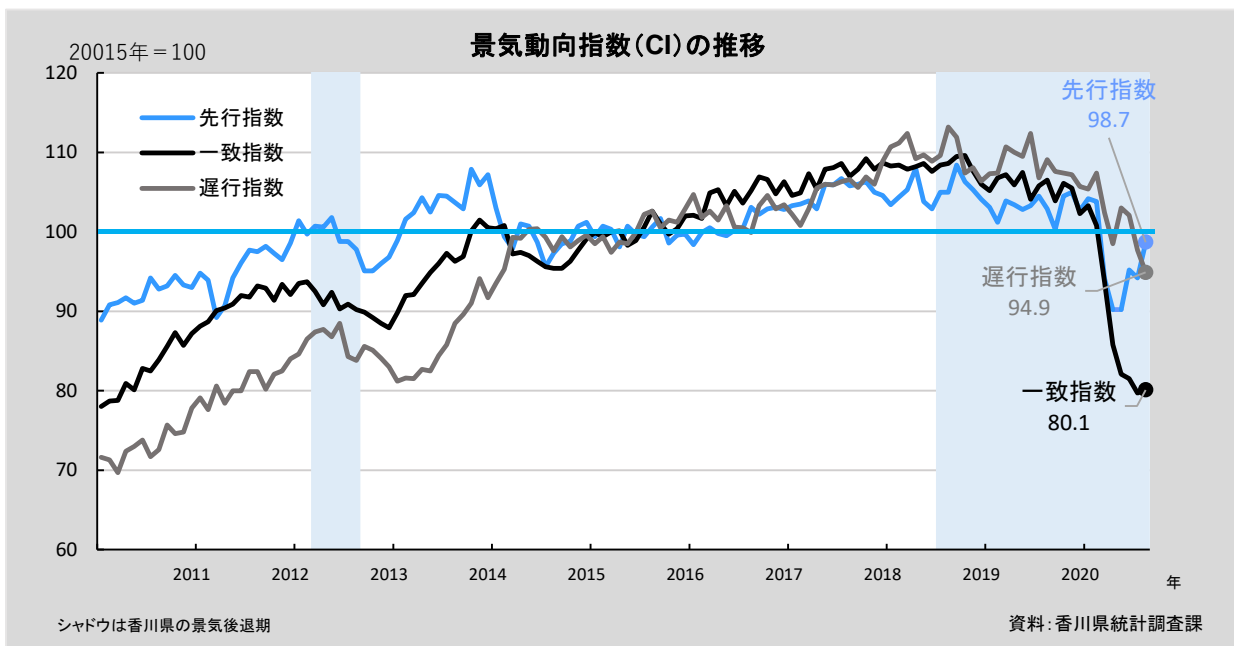


概況	景気は、新型コロナウイルス感染症の影響で弱い動きが続いている。
個人消費	持ち直しの動きがみられる。
住宅投資	減少している。
公共投資	減少するも高水準となっている。
生産活動	持ち直しの動きがみられる。
雇用情勢	求人減により弱い動きとなっている。
貿易	輸出、輸入ともに減少している。
観光	弱いながらも、持ち直しの動きがみられる。

景気動向指数(かがわ CI) 一致指数 7カ月ぶり上昇



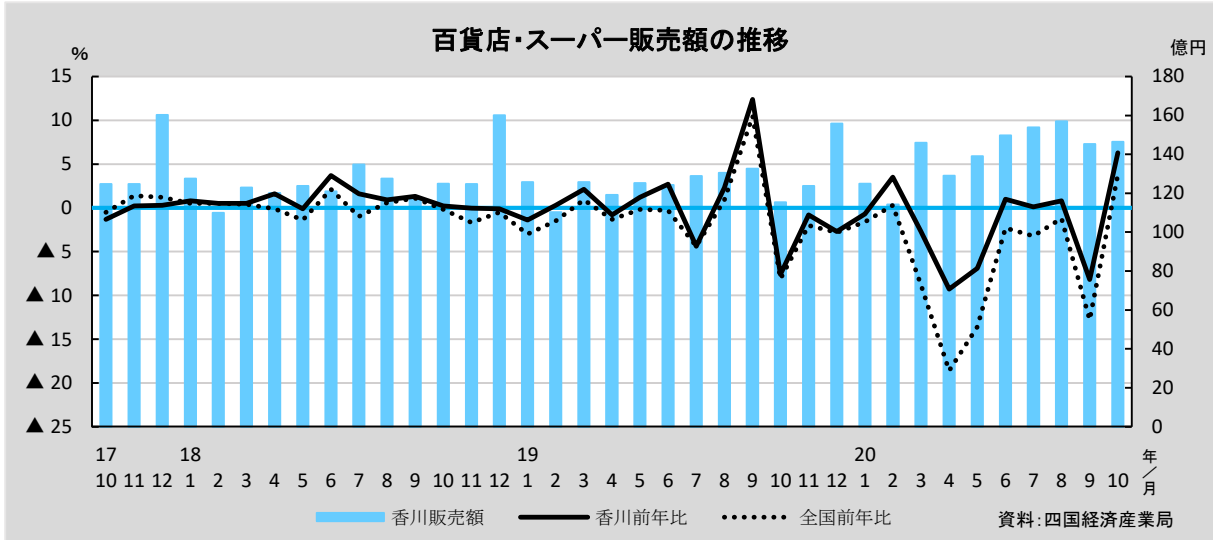
景気の状態をみると、9月のCI一致指数は80.1（前月比+0.4ポイント）と7カ月ぶりに上昇。CI先行指数は98.7（前月比+4.5ポイント）と2カ月ぶりに上昇。CI遅行指数は94.9（同▲2.8ポイント）と3カ月連続で下降。

景気の先行きを示す先行系列の個別指標では、消費者態度指数、鉱工業在庫率指数、生産財生産指数等が上昇に寄与したことにより、前月から4.5ポイント上昇。

先行系列		寄与度	一致系列		寄与度	遅行系列		寄与度
採用景気指標	1 新規求人数	▲ 0.89	1 雇用保険受給者実人員		0.11	1 常用雇用指数		0.10
	2 乗用車新車登録台数	▲ 0.17	2 有効求人倍率		▲ 0.29	2 有効求職者数		▲ 0.93
	3 鉱工業在庫率指数	1.97	3 所定外労働時間指数		0.10	3 消費者物価指数		0.01
	4 生産財生産指数	0.72	4 鉱工業生産指数		0.78	4 家計消費支出		▲ 0.94
	5 新設住宅着工戸数	0.70	5 鉱工業出荷指数		0.37	5 鉱工業在庫指数		▲ 0.89
	6 金融機関貸出残高	0.21	6 建築着工床面積		0.15	6 法人事業税調定額		0.05
	7 消費者態度指数	2.31	7 百貨店・スーパー 既存店販売額		▲ 0.78	7 第3次産業活動指数		0.17

●百貨店・スーパー販売額

2カ月ぶり増加 ↑



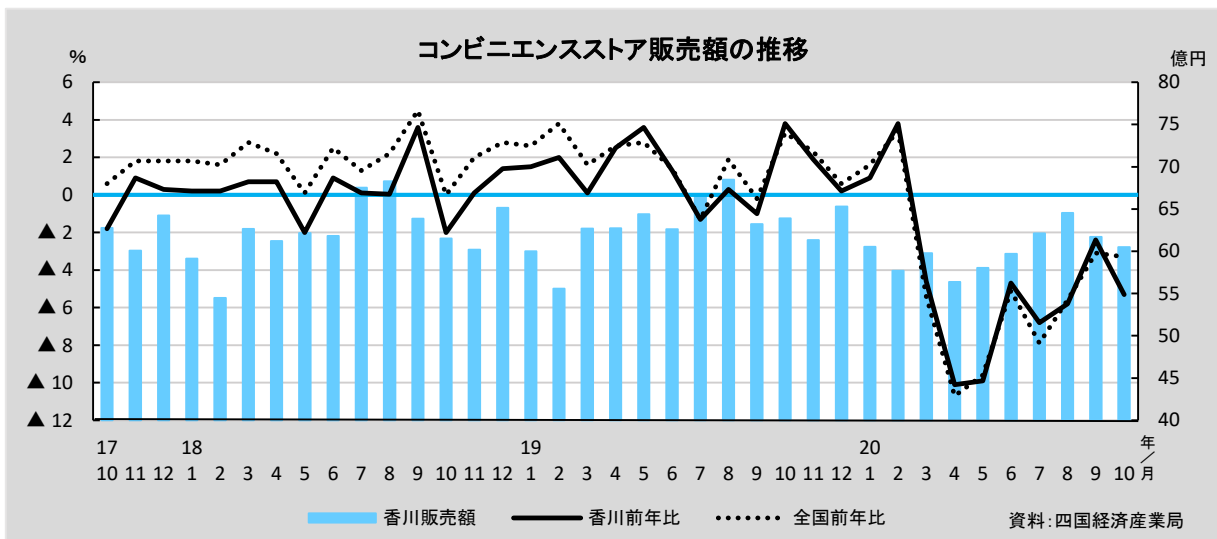
2020/10月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	123,335	59,984	1,053,357	2,917	6,517	93,315	123,575	761	1,463,761
前年同月比(%)	2.0	15.9	2.5	32.5	▲12.4	39.9	20.4	▲0.4	6.3

10月の百貨店・スーパー全店(84店)の販売額は146.4億円で前年同月比+6.3%となった。内食需要が好調で、飲食料品・家庭用品が伸びたことに加え、前年10月は消費税増税の影響で販売が落ち込んでいたことの反動で、2カ月ぶりに増加した。

品目別にみると、「家庭用品」は台所用消耗品が伸び前年同月比+39.9%、「飲食料品」は全般的に堅調で同+2.5%、「その他の商品」も日用消耗品が好調で同+20.4%と増加した。

●コンビニエンスストア販売額

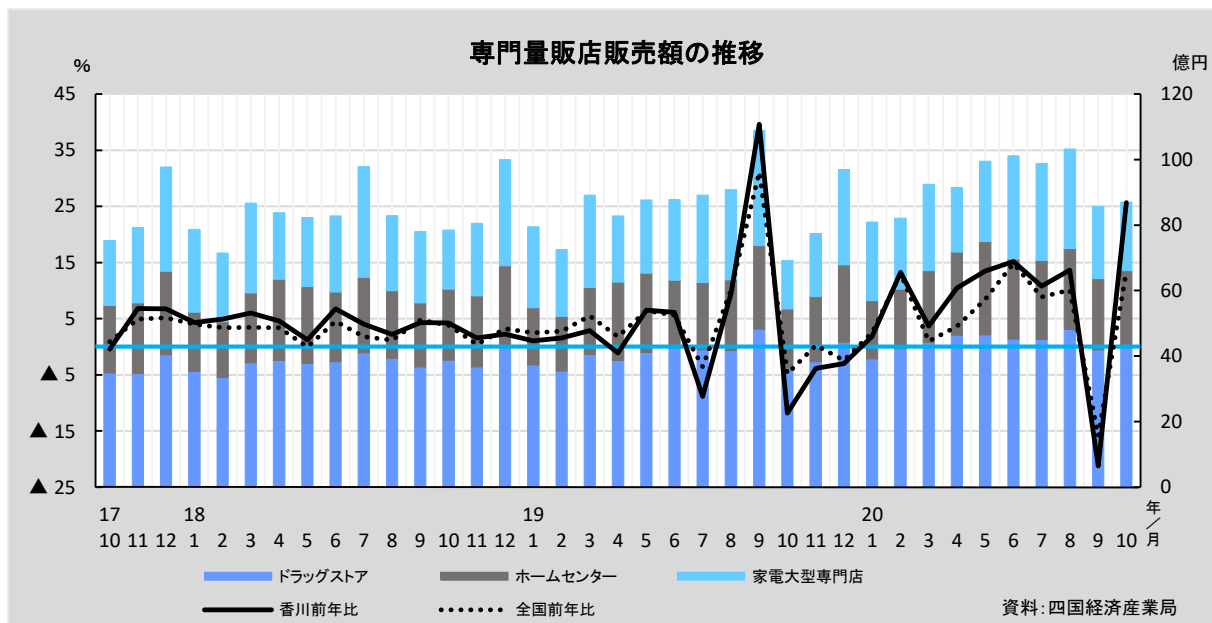
8カ月連続減少 ↓



10月のコンビニエンスストア全店(408店)の販売額は60.5億円で、前年同月比▲5.3%となった。前月、値上げ前の駆け込み需要がみられたたばこが反動減となったことや、外出自粛による来店客数の減少で8カ月連続の減少となった。

● 専門量販店販売額

2 カ月ぶり増加 ↑

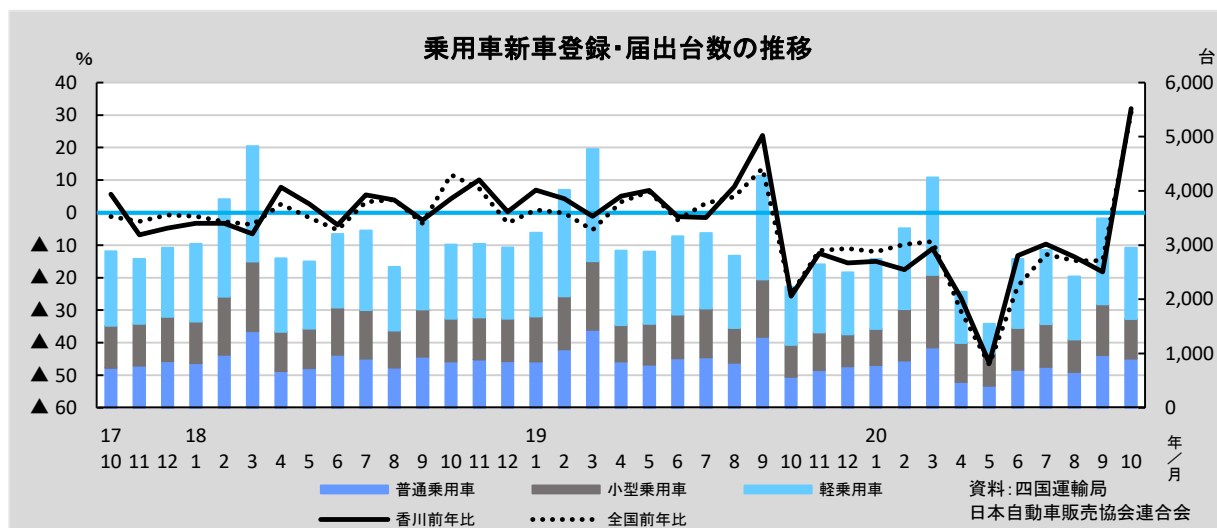


10月の専門量販店全店（201店）の販売額は87.0億円で、前年10月は消費税増税の影響で販売が落ち込んでいたことの反動で、前年同月比+25.7%と2カ月ぶりに増加した。

業態別にみると、AV・情報家電などが増加した**家電大型専門店**（29店）の販売額は、21.0億円で前年同月比+41.4%となった。マスク、除菌剤などが堅調に推移した**ドラッグストア**（128店）の販売額は、42.6億円で同+17.2%。**ホームセンター**（44店）は家庭用品・日用消耗品が増加し、販売額は23.5億円で同+29.7%となった。

● 乗用車新車販売台数

13 カ月ぶり増加 ↑



10月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,949台で、前年の消費税増税の反動で、前年同月比+31.9%と13カ月ぶりに増加となった。

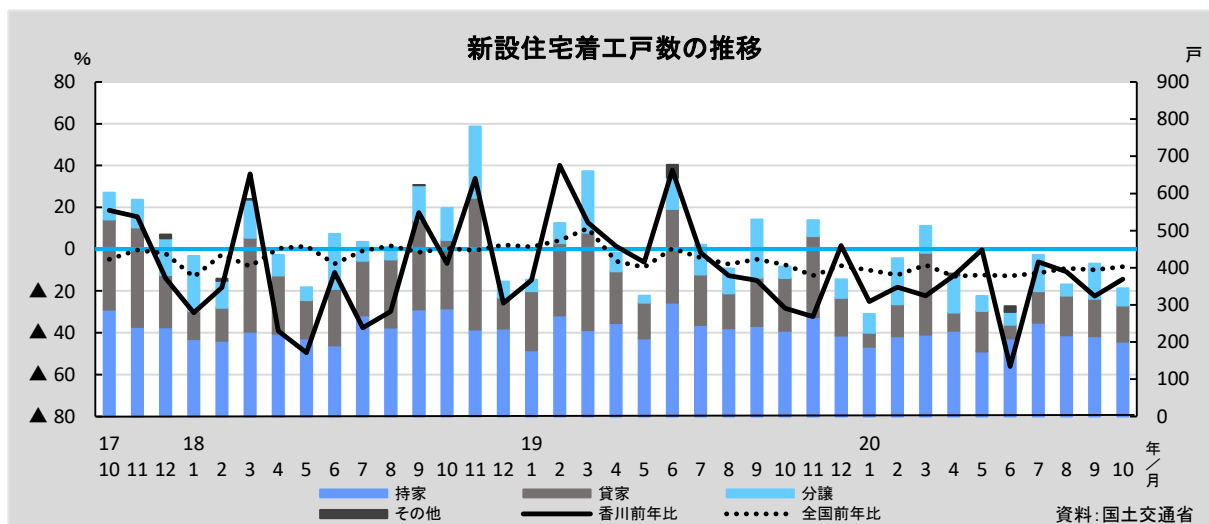
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+58.9%、小型乗用車で同+24.5%、軽乗用車で同+21.8%となった。

住宅投資

減少している

●新設住宅着工

10カ月連続減少 ↓



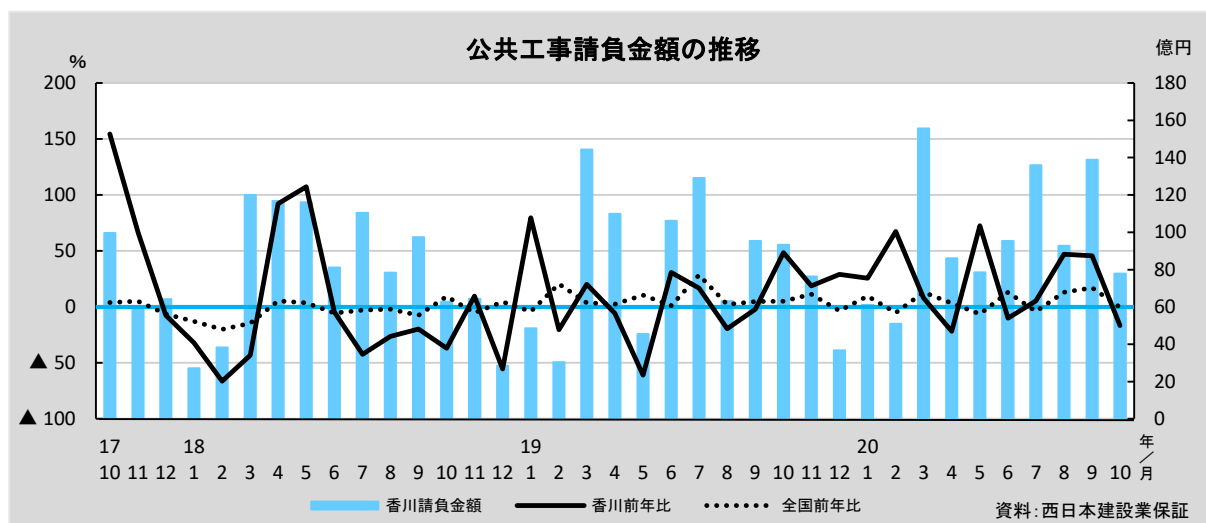
10月の新設住宅着工戸数は345戸で、前年同月比▲14.4%と、10カ月連続で減少した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比▲12.6%、**貸家**で同▲31.7%、**分譲住宅**で同+51.6%となった。

公共投資

減少するも高水準となっている

●公共工事請負金額

4カ月ぶり減少 ↓



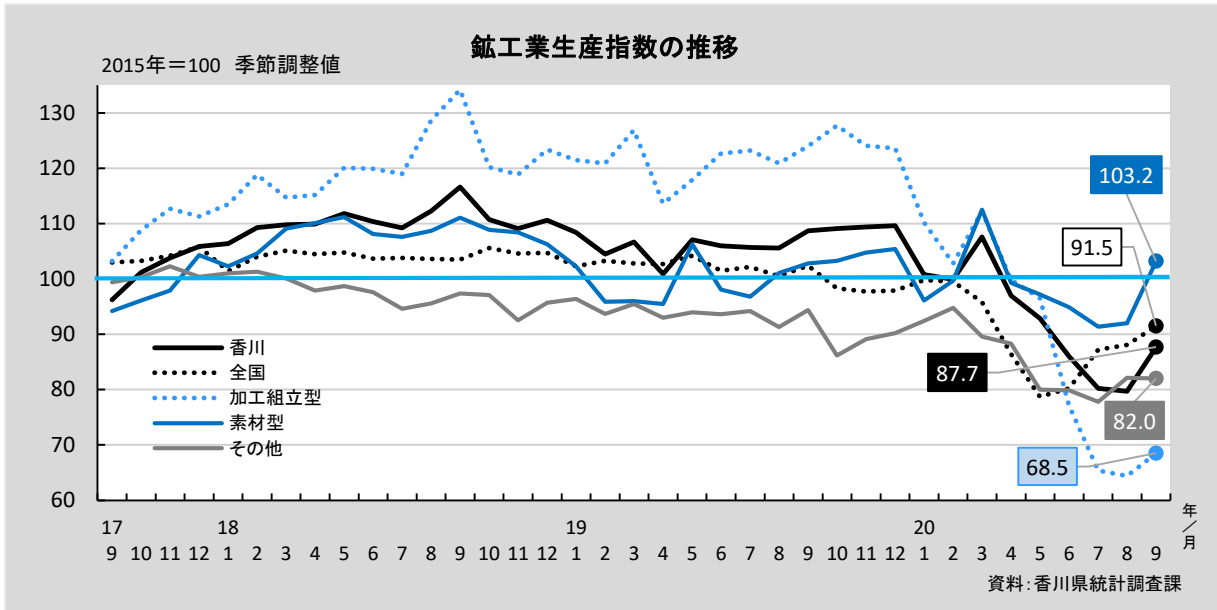
10月の公共工事請負金額は77.8億円で、前年同月比▲16.5%と4カ月ぶりに減少した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+86.1%、**県**で同▲45.5%、**市町**で同+10.6%となった。4～10月の年度累計では前年同期比9.8%増加している。

生産活動

持ち直しの動きがみられる

● 鉱工業生産指数

6 カ月ぶり上昇 ↑



9月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は87.7（前月79.7）となり、6カ月ぶりに上昇した。

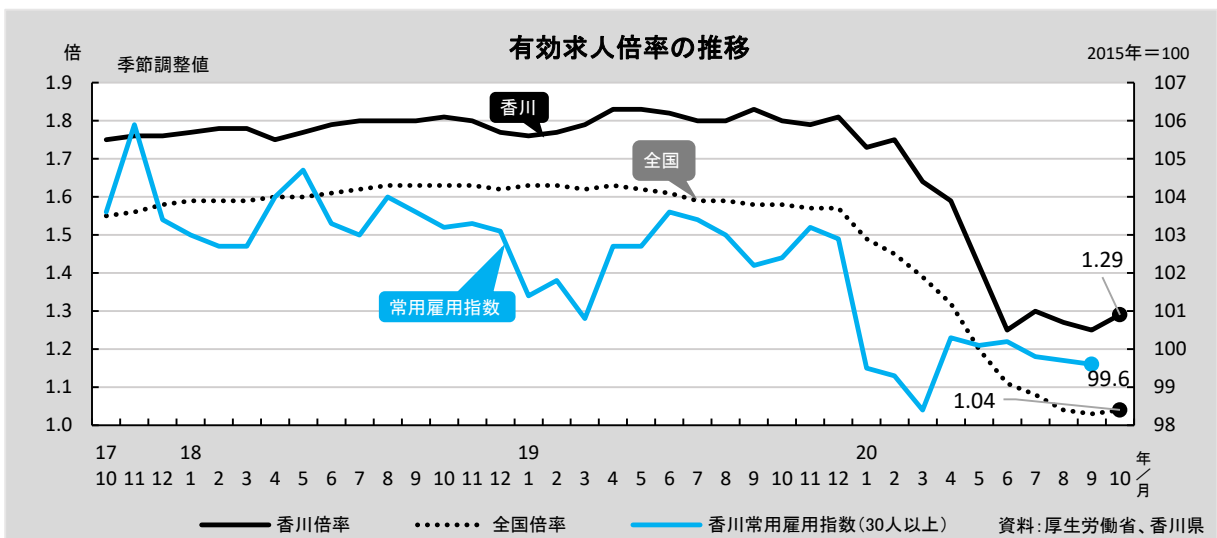
業種別では、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品）は前月比+45.7%、素材型の非鉄金属工業（電気金）は同+13.7%と上昇した。一方、その他の繊維工業（不織布）は同▲13.3%と低下した。

雇用情勢

求人減により弱い動きとなっている

● 有効求人倍率

3 カ月ぶり上昇 ↑



10月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.29倍（全国4位）と前月より0.04ポイント上昇した。

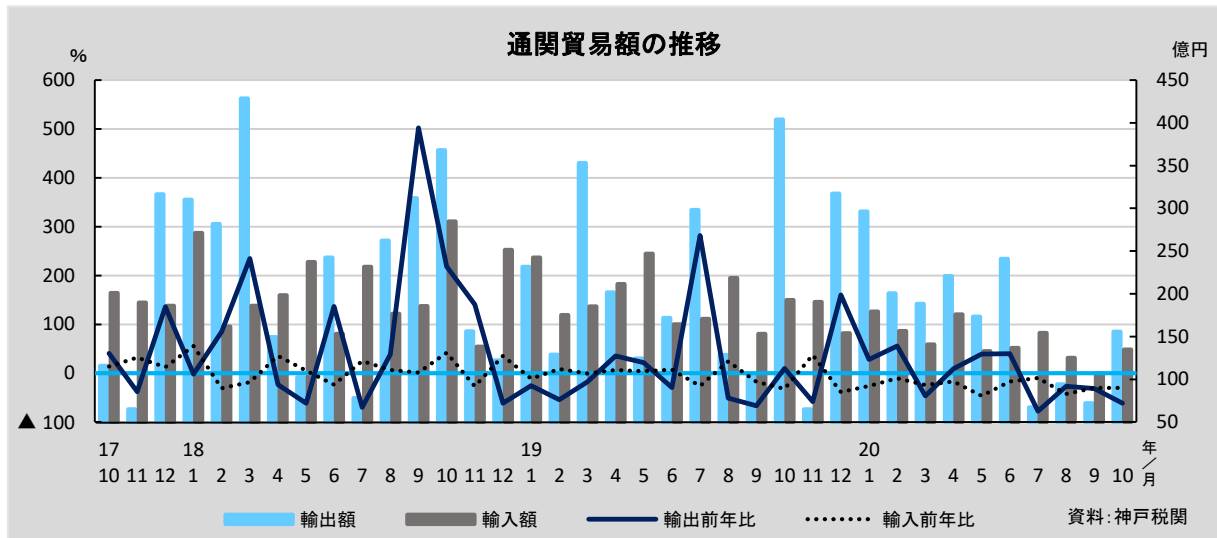
新規求人（原数値：前年同月比）は、情報通信業等で増加し、製造業、卸売業・小売業等で減少となり、全体で▲15.9%と10カ月連続で減少した。

9月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、99.6となり、前年同月比は14カ月連続で低下した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	1.99
事務的職業	0.45
販売の職業	1.85
サービスの職業	2.86
生産工程の職業	1.69
輸送・機械運転の職業	1.89
建設・採掘の職業	6.67
運搬・清掃・包装等の職業	0.91

貿易

輸出、輸入ともに減少している



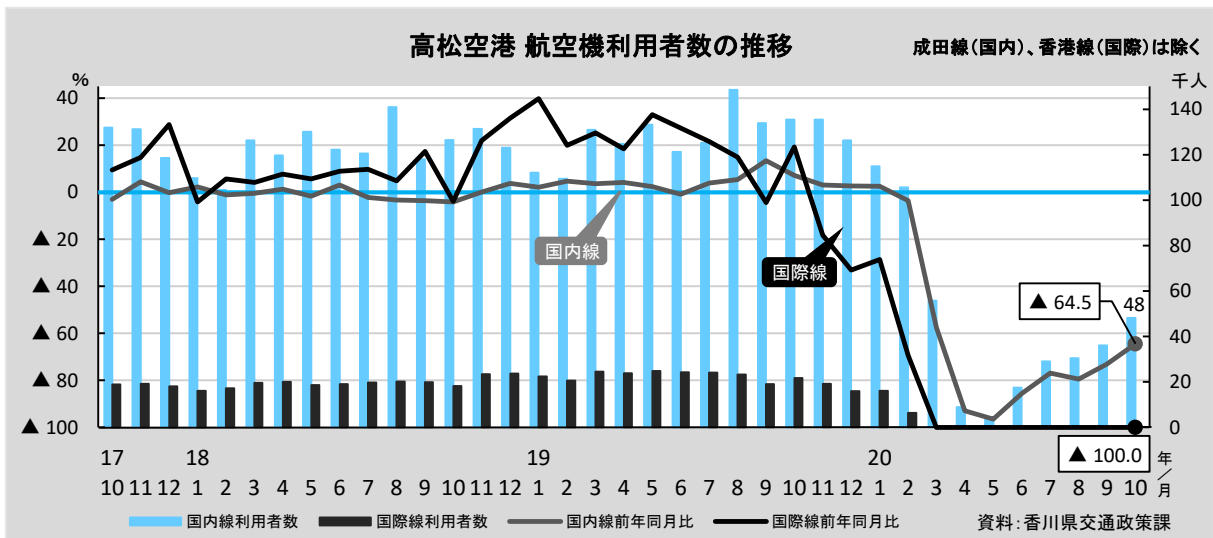
10月の輸出額は前年同月比▲61.4%の155.7億円、輸入額は同▲30.0%の134.8億円となり、差し引き20.9億円の出超となっている。

輸出額減の主因は、前年339億円だった貨物船輸出額がゼロとなったためである。輸入額減の主因は、石炭輸入額が前年同月比▲56.3%の34億円となったためである。

交通

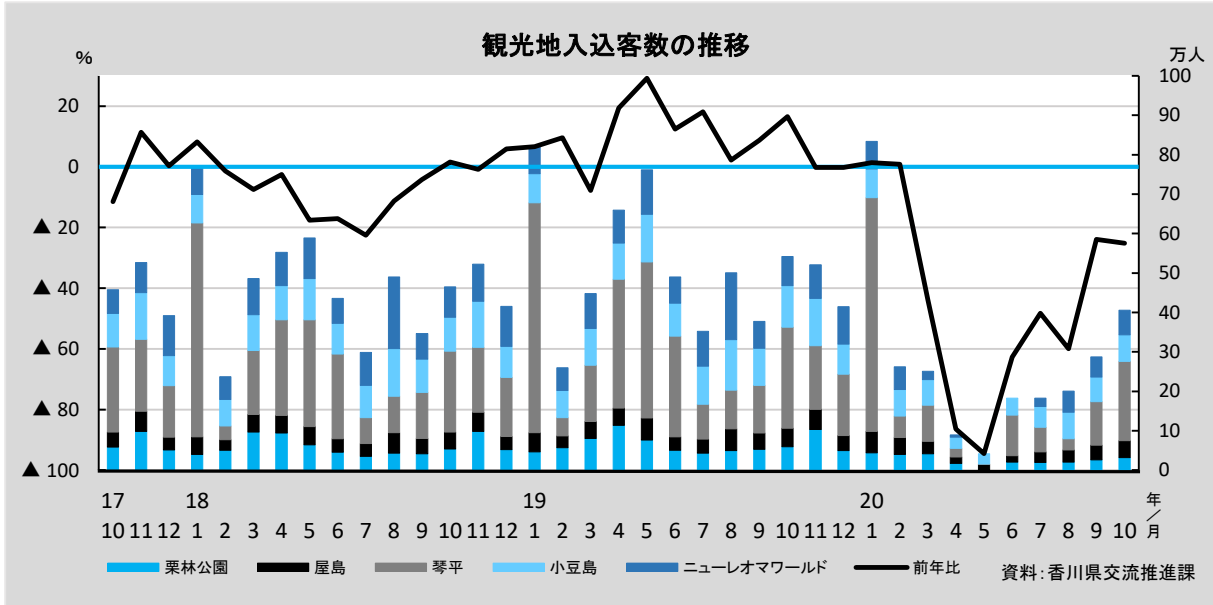
国内線は9カ月連続減少、国際線は8カ月連続全面運休

●高松空港旅客輸送実績



10月の航空機利用者数は、国内線（羽田・那覇線）が48,145人（前年同月比▲64.5%）となり、9カ月連続で減少しました。羽田線は45,750人（前年同月比▲63.6%）、那覇線は2,395人（同▲75.4%）となった。国際線（ソウル・上海・台北線）は新型コロナウイルスの影響により8カ月連続の全面運休となった。

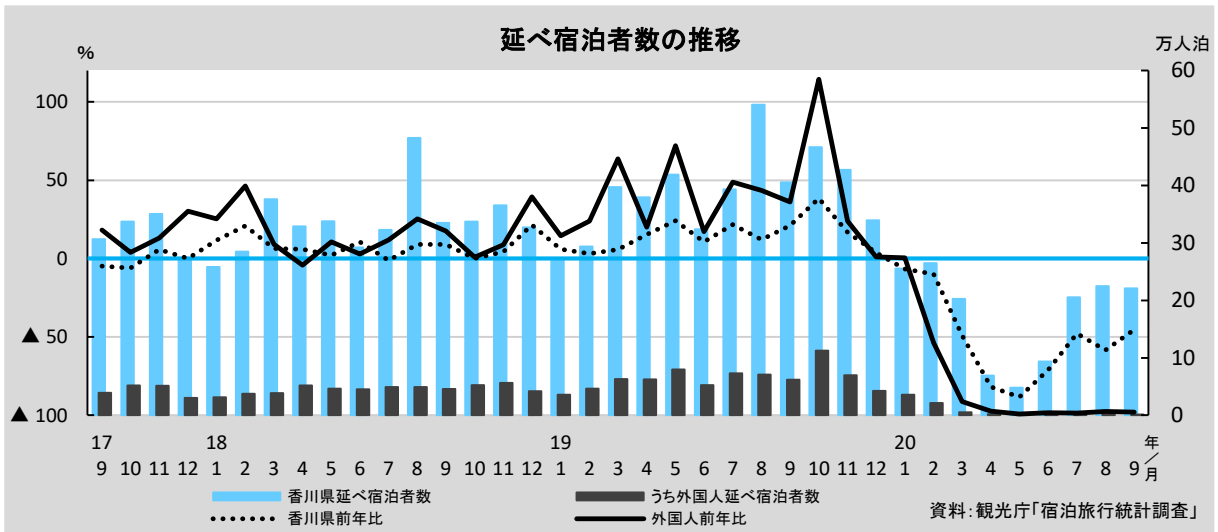
●主要観光地入込客数



観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	ニューレオマワールド	合計
10月(人)	前年同月比	32,188 ▲46.2%	42,752 ▲8.6%	201,000 ▲21.5%	67,641 ▲36.1%	61,807 ▲15.9%	405,388 ▲25.2%
1~10月累計(人)		263,905 ▲58.1%	313,034 ▲28.0%	1,266,800 ▲45.3%	550,989 ▲42.4%	341,505 ▲61.1%	2,736,233 ▲47.5%

10月の主要観光地（ニューレオマワールド含む）の入込客数は、前年同月比▲25.2%と8カ月連続で減少。政府や自治体の観光支援キャンペーンの効果で観光需要は持ち直しの動きがみられ、屋島は▲8.6%（前月▲12.1%）、ニューレオマワールドは▲15.9%（前月▲24.9%）となった。1~10月の累計では前年比▲47.5%となった。

●延べ宿泊者数



9月の延べ宿泊者数は221,150人で、前年同月比▲45.5%と9カ月連続で減少した。うち、外国人延べ宿泊者数は1,250人となり、同▲98.0%と8カ月連続で減少した。